議案第134号

三豊市都市下水路条例の一部改正について

三豊市都市下水路条例の一部を改正する条例を次のように定める。

平成24年12月4日提出

三豊市長 横山 忠始

三豊市条例第 号

三豊市都市下水路条例の一部を改正する条例

三豊市都市下水路条例（平成 18 年三豊市条例第 194 号）の一部を次のように改正する。

第 3 条の次に次の 5 条を加える。

（都市下水路の構造の技術上の基準）

第 3 条の 2 法第 2 8 条第 2 項に規定する条例で定める都市下水路の構造の技術上の基準は、次条から第 3 条の 6 までに定めるところによる。

（排水施設及び処理施設に共通する構造の基準）

第 3 条の 3 排水施設及び処理施設（これらを補完する施設を含む。以下同じ。）に共通する構造の基準は、次のとおりとする。

- (1) 堅固で耐久力を有する構造とすること。
- (2) コンクリートその他の耐水性の材料で造り、かつ、漏水及び地下水の浸入を最少限度のものとする措置が講ぜられていること。ただし、雨水を排除すべきものについては、多孔管その他雨水を地下に浸透させる機能を有するものとする事ができる。
- (3) 屋外にあるもの（生活環境の保全又は人の健康の保護に支障が生ずるおそれのないものとして規則で定めるものを除く。）にあつては、覆い又は柵の設置その他下水の飛散を防止し、及び人の立入りを制限する措置が講ぜられていること。
- (4) 下水の貯留等により腐食するおそれのある部分にあつては、ステンレス鋼その他の腐食しにくい材料で造り、又は腐食を防止する措置が講ぜられていること。
- (5) 地震によって下水の排除及び処理に支障が生じないよう地盤の改良、可撓継手の設置その他の規則で定める措置が講ぜられていること。

（排水施設の構造の基準）

第 3 条の 4 排水施設の構造の基準は、前条に定めるもののほか、次のとおりとする。

- (1) 排水管の内径及び排水渠^{きよ}の断面積は、規則で定める数値を下回らないものとし、かつ、計画下水量に応じ、排除すべき下水を支障なく流下させることができるものとする事。
- (2) 流下する下水の水勢により損傷するおそれのある部分にあつては、減勢工の設

置その他水勢を緩和する措置が講ぜられていること。

- (3) 暗渠^{きよ}その他の地下に設ける構造の部分で流下する下水により気圧が急激に変動する箇所^{きよ}にあつては、排気口の設置その他気圧の急激な変動を緩和する措置が講ぜられていること。
- (4) 暗渠^{きよ}である構造の部分の下水の流路の方向又は勾配が著しく変化する箇所その他管渠^{きよ}の清掃上必要な箇所にあつては、マンホールを設けること。
- (5) またはマンホールには、蓋（汚水を排除すべきます又はマンホールにあつては、密閉することができる蓋）を設けること。

(適用除外)

第3条の5 前2条の規定は、次に掲げる都市下水路については、適用しない。

- (1) 工事を施行するために仮に設けられる都市下水路
- (2) 非常災害のために必要な応急措置として設けられる都市下水路

(都市下水路の維持管理の基準)

第3条の6 都市下水路のしゅんせつは、1年に1回以上行うものとする。ただし、下水の排除に支障がない部分については、この限りでない。

附 則

この条例は、平成25年4月1日から施行する。

【議案第134号関係】

三豊市都市下水路条例(平成18年三豊市条例第194号)
一部改正 新旧対照表 (抄)

改正後 (案)	現 行
<p>第3条 略</p> <p><u>(都市下水路の構造の技術上の基準)</u></p> <p>第3条の2 法第28条第2項に規定する条例で定める都市下水路の構造の技術上の基準は、次条から第3条の6までに定めるところによる。</p> <p><u>(排水施設及び処理施設に共通する構造の基準)</u></p> <p>第3条の4 排水施設及び処理施設(これらを補完する施設を含む。以下同じ。)に共通する構造の基準は、次のとおりとする。</p> <p>(1) 堅固で耐久力を有する構造とすること。</p> <p>(2) コンクリートその他の耐水性の材料で造り、かつ、漏水及び地下水の浸入を最少限度のものとする措置が講ぜられていること。ただし、雨水を排除すべきものについては、多孔管その他雨水を地下に浸透させる機能を有するものとする事ができる。</p> <p>(3) 屋外にあるもの(生活環境の保全又は人の健康の保護に支障が生ずるおそれのないものとして規則で定めるものを除く。)にあつては、覆い又は柵の設置その他下水の飛散を防止し、及び人の立入りを制限する措置が講ぜられていること。</p> <p>(4) 下水の貯留等により腐食するおそれのある部分にあつては、ステンレス鋼その他の腐食しにくい材料で造り、又は腐食を防止する措置が講ぜられていること。</p> <p>(5) 地震によって下水の排除及び処理に支障が生じないよう地盤の改良、可撓継手の設置その他の規則で定める措置が講ぜられていること。</p> <p><u>(排水施設の構造の基準)</u></p> <p>第3条の4 排水施設の構造の基準は、前条に定めるもののほか、次のとおりとする。</p> <p>(1) 排水管の内径及び排水渠の断面積は、規則で定める数値を下回らないものとし、かつ、計画下水量に応じ、排除すべき下水を支障なく流下させることができるものとする事。</p> <p>(2) 流下する下水の水勢により損傷するおそれのある部分にあつては、減勢工の設置その他水勢を緩和する措置が講ぜられていること。</p> <p>(3) 暗渠その他の地下に設ける構造の部分で流下する下水により気圧が急激に変動する箇所にあつては、排気口の設置その他気圧の急激な変動を緩和する措置が講ぜられていること。</p> <p>(4) 暗渠である構造の部分の下水の流路の方向又は勾配が著しく変化する箇所その他管渠の清掃上必要な箇所にあつては、マンホールを設けること。</p> <p>(5) ます又はマンホールには、蓋(汚水を排除すべきます又はマンホールにあつては、密閉することができる蓋)を設けること。</p> <p><u>(適用除外)</u></p> <p>第3条の5 前2条の規定は、次に掲げる都市下水路について</p>	<p>第3条 略</p>

は、適用しない。

(1) 工事を施行するために仮に設けられる都市下水路

(2) 非常災害のために必要な応急措置として設けられる都市下水路

(都市下水路の維持管理の基準)

第3条の6 都市下水路のしゅんせつは、1年に1回以上行うものとする。ただし、下水の排除に支障がない部分については、この限りでない。